

2014年12月定期報告と次月度以降の活動予定

活動日誌

活動日誌		
12月	1日	第3回『組合員・役職員学習会』(ワークショップとファシリテーション ファシリテーションの基礎)
	3日	消費者カレッジ『国学院大学栃木短期大学』
	4日	地方消費者グループ・フォーラム栃木実行委員会、ろうきん・全労済忘年会
	6日	ECO テック&ライフとちぎ2014 6-7日
	9日	県連理事会
	10日	協同組合交流会
	11日	とちぎ食の安全ネットワーク(全体会)「はじめての HACCP 講座」学習
	13日	いわき市四倉仮設住宅お茶会
	15日	第4回『組合員・役職員学習会』(昨今の消費者問題と消費者市民社会の意義)
	15日	JA 食と農を基軸として地域に根ざした協同活動フォーラム
	15日	関東農政局 消費者団体との意見交換会
	17日	地方消費者グループ・フォーラム栃木実行委員会
	18日	栃木放送番組審議会・小山市総合計画懇話会・食肉センター整備検討委員会
19日	JA 改革検討委員会	
20日	ふれあいお茶会	
22日	足尾銅山生活協同組合三養会訪問	
1月	5日	宇都宮市商工会商工会議所三者賀詞交歓会・小山市商工会議所賀詞交歓会
	7日	県民生活部・保健福祉部挨拶
	8日	JA 栃木中央会・全農挨拶
	8日	6次産業研究会
	10日	いわき市四倉仮設住宅お茶会
	13日	宇都宮市食品安全関係団体連絡会議・栃木県経営者協会訪問
	14日	栃木県商工会連合会訪問
	15日	地方消費者グループ・フォーラム栃木実行委員会
	16日	第5回常務理事会・財政検討委員会・賀詞交歓会
	19日	エコクラブ壁新聞コンテスト
	19日	農業振興公社「農地中間管理事業評価委員会」
	20日	第5回『組合員・役職員学習会』(三谷の現状から見えてきたこと)
	22日	とちぎ食の安全ネットワーク(世話人会)
	24日	地球温暖化講演会
	26日	とちぎ食の安全安心推進会議
27日	とちぎ消費者ネットワーク(全体会)「高齢者の消費者トラブルに対処するために」学習	
27日	地方消費者グループフォーラム実行委員会・地連運営委員会・県連推進会議	
30日	地方消費者グループフォーラム関東第3回実行委員会	
2月	2日	くらし部会
	4日	エコ農業シンポジウム・全漁連青年女性交流大会第1回審査会
	6日	栃木県農政審議会
	10日	定例理事会
	12日	栃木放送番組審議会
	14日	いわき市四倉中核工業団地内仮設住宅お茶会
	17日	ふれあいお茶会
	19日	『平成26年度関東ブロック地方消費者グループ・フォーラム』(10時30分～15時15分、栃木県総合文化センター)
	23日	第6回『組合員・役職員学習会』(くらしから考える生協の活動)
	24日	とちぎ消費者ネットワーク(世話人会)
26日	全漁連青年女性交流大会審査会	

県連活動

1. くらし部会 (地域生協組合員理事による部会活動)

12月定例会はありませんでした。重点課題の進捗は次の通りです。

●(介護保険制度改定に伴う活動経過)「市町訪問活動」

介護保険制度の改定にともない、新しい地域支援事業の計画状況の把握、及び計画促進の要請と生協の活動資源を使った支援の訴えかけをする「市長訪問」を実施し、今後の進め方は1月度定例会で検討予定です。

(活動の記録)

日	課題	取組み内容
8/29	全体学習会	『「介護保険制度の改定に向けた市町村訪問活動について」～新しい地域支援事業～これまでの介護保険精度と何が変わるのか？市町村訪問のポイントについて』 講師：日本生協連福祉事業推進部 山際部長⇒参加者は39名で、「分かりやすく説明をいただき理解が深まった。」との感想多数。
8月 9月	会員取組み 事前集約	訪問を前に、各生協の事業状況やサービス資源を集約し、支援事業に役立つことがないかなど、市町にアピールできるように資料作成の集約を行う。
10/14	小山市訪問 事前学習	小山市の訪問を前に、市の取組み状況について学習会。 講師：事業団 佐藤理事長
10/16	小山市長訪問	市長と30分の懇談、その後高齢生きがい課と懇談し、地域協議会などへの参加要請をした。
10/24	宇都宮市 訪問事前学習	宇都宮市の訪問を前に、市の取組み状況について学習会。 講師：ふれあいコープ 崎谷専務理事
10/27	宇都宮市長訪問	市長と10分間の懇談

● (行政との協働事業)

- ・「ECOテック&ライフとちぎ2014」(12月6日7日)に出展しました。ブースに生活クラブ生協・よつ葉生協・とちぎコープの環境活動のパネルを展示し、エコイズを実施しながらの説明をしました。好評で約420人以上の方に参加いただきました。また、「家庭の省エネアンケート」を配布しました。

2. 『組合員理事・組織活動担当職員学習会』の開催

12月は、消費者市民社会について、横浜国立大学の西村教授に学び、分散会で内容を深めました。次回は、東京三谷で生活困窮者支援をされているNPO法人ふるさとの会の滝脇常務に学びます。

日	テーマ	講師	参加
9/22	「協同組合思想とその歴史」	栃木県生活協同組合連合会 竹内会長理事	36人
10/27	「今なぜJA改革なのか」	宇都宮大学 農学部 農業経済学科 秋山満教授	35人
12/1	「共有を深めるワークショップを学ぶ」	宇都宮大学 教育学部 陣内雄次教授	39人
12/15	「昨今の消費者問題と消費者市民社会の意義」	横浜国立大学 教育人間科学部 西村隆男教授	64人
1/20	「山谷の現状からみえてきた事 地域住民による生活困窮者の支援」	NPO法人自立センターふるさとの会 滝脇憲常務理事	

3. 『組合員・役職員学習会』の開催

今年度は、現在まで2回の開催となりました。あと1回の開催を予定しており、テーマを検討しています。

	日	テーマ	講師	参加・備考
1	7/7	いま憲法について考える ～憲法のいきづく国にするために～	伊藤塾塾長 伊藤真 弁護士	参加81名 「憲法について改めて学ぶ機会になった」との感想あり。
2	7/26	TPP交渉の現状と今後の見通し ～私たちの暮らしにどう影響するの か？～	東京大学大学院農学 生命科学研究科 鈴 木宣弘教授	参加104名 「知ることの大切さを知った。」などの感想あり。

4. 行政、他団体との協働

- 1) 恒例の報道代表者会との懇談会を12月2日(火)予定していましたが、衆議院選挙となり延期しました。(開催期日の相談中)

- 2) 協同組合間交流会の実施

2012年の国際協同組合年を契機に、栃木県協同組合連絡会を設置し、年に一度交流会を実施することになり本年度は12月10日(水)にJA、森林組合、労福協、生協など、47名の参加で開催されました。講演では、農林中金総合研究所客員研究員の石田信隆氏による「農協改革と協同組合の現代的意義について」があり、活動事例報告ではJAはが野青壮年部榎毛部長から販促などを中心とした活動の現状報告があり、栃木県森林組合連合会の共販部小林部長からは丸太の共販での安定価格供給の取組み報告があり、労福協からは全労済栃木県本部の小西課長より共済活動原点を知る、理解する取り組みについて報告があり、生協からはふれあいコープの「お互い様」活動の報告を事務局長の池田さんが行いました。

- 3) ユニセフハンドインハンドを例年通り11月12月の期間で、各会員が取組み中です。(1月

ネットワーク活動

1. とちぎ食の安全ネットワーク

12月の全体会の定例会は、学習会を実施し、全体会議では食品安全フォーラムのアンケートなどの振り返りを行いました。重点課題の進捗は次の通りです。

●(食品安全フォーラム)

栃木県とネットワークの共催となる食品安全フォーラムの実施。

地区	日	テーマ	場所	参加
第13回	10/9	放射性物質と食品の安全性について～今それぞれの立場で取り組んでいること～	県庁研修館講堂	148人
安足地域	10/23	食品工場の品質管理について～カレーのルーはどのようにつくるの～	ハウス食品(佐野市)	18人
県北地域	11/14	食品中の残留農薬と食品の安全性について	大田原市総合文化会館	58人

●(全体会を使った学習会)

毎回全体会では学習会を実施しています。

日	テーマ	講師
5/15	輸入食品の監視体制 TPP 参加で大丈夫か	宇都宮大学 宇田靖名 名誉教授
9/25	動物医薬品と食の安全性に関わるセミナー 「動物医薬品の安全性確保について」 「県における動物医薬品の適正使用の啓発・指導の状況について」	内閣府食品安全委員会事務局 関口秀人 課長 補佐 栃木県農政部畜産振興課 小松亜弥子 主査
12/11	ハサップ(HACCP)学習会 1) はじめてのHACCP講座 2) とちぎハサップについて 3) うつのみやハサップについて	宇都宮大学 名誉教授 宇田靖氏 県保健福祉部生活衛生課 副主幹 都丸美枝子 氏 宇都宮市保健所生活衛生課 総括主査 長谷充啓 氏
3/18	国の農業政策について	宇都宮大学農学部教授 秋山満 氏

2. とちぎ消費者ネットワーク

12月の定例会はありませんでした。「地方消費者グループ・フォーラム」栃木実行委員会が開催され、同日の全体の流れが確認されました。今後、参加者を募るために呼びかけ団体を調べて行きます。

●(地方消費者グループ・フォーラム関東ブロック開催準備)

消費者問題の活動をしている団体を中心に交流する消費者庁提案の交流会「1地方消費者グループ・フォーラム」の関東ブロック開催(2015年2月19日、栃木県総合文化センター、270名規模)をとちぎ消費者ネットワークで担います。全国のキックオフ集会在8月28日に東京で開催され、それを受けて栃木実行委員会を開催しています。

●(とちぎ消費者カレッジ計画)

「若者(主に大学生)を対象にした消費者被害防止の啓発委託事業」を栃木県から受託し、大学、専門学校で、啓発授業を実施する事業です。今年度は5校実施し、495人の参加となりました。今後まとめに入ります。

大学	日時	テーマ	講師・内容	参加
①宇都宮共和大学子ども生活部	9/29(月)14:45-	・若者の消費者問題を考えてみましょう「相談の現場から伝えたいこと」	白土ボートネット 副理事長	39人
②作新学院大学女子短期大学部	10/20(月)14:40-	・二十歳の責任「消費者被害を受けない、与えない」	服部弁護士	133人
③宇都宮大学	11/12(水)16:10-	・契約の意味と消費者被害の実態	山口弁護士	78人



¹ 地方消費者グループ・フォーラムとは、消費者庁の呼びかけによる消費生活に関する問題に携わる各地域の団体・グループと、行政を含めた多様な主体間で連携を図り、各分野で諸課題に取り組むために、全国ブロック毎に設けられた情報交換及び意見交換等をする「交流の場」。平成23年から5回目の開催となる。

④ 栃木農業大学校 ⑤ 国学院大学栃木短期大学	11/27(木)13:10- 12/3(水)14:30-	・若者の消費者トラブル 現状と対応 ・消費者トラブルに遭わない為に	岡田 祐一 代表理事 山田 祐一 代表理事 山田 祐一 代表理事	62人 183人
----------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	--	-------------

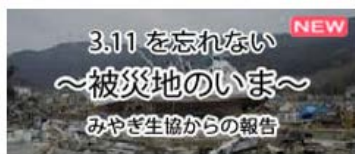
● (全体会を使った学習会)

毎回全体会では学習会を実施しています。

日	テーマ	講師
5/27	消費者問題はなぜおこる	山田 幹事
7/22	消費者市民社会における栃木県内のパブリックコメント制度を検証する	高岡 幹事
10/28	適格消費者団体について	服部 幹事
1/27	高齢者の消費者トラブルに対処するために「周囲の見守りと気づきが重要」	葛谷 幹事
3/24	未定	杉原 代表

震災支援活動

● みやぎ生協から発信される「3.11を忘れない 被災地のいま」をホームページで連続掲載支援



12月第15回となる情報「待たされる家選び、慣れない住み処」を掲示しました。1月には17回までアップする予定です。

● 被災者生活再建支援制度の拡充を求める請願署名の実施

栃木の生協で取組んだ署名は5,801名となり、二次集約の12月15日では全国で43万8千筆と大きなうねりとなっています。

● お茶会の実施

ふれあいお茶会 行政、NPO法人ウィズ、県連会員などの協力のもと、社会福祉法人ふれあいコープ特養みどりの地域交流室を使って開催する福島からの避難者を対象にしたふれあいお茶会を定例で実施しています。(目的：①参加者同士をつなげる場、②参加者の想っていること困りごとを受けとめつなげる場、③おしゃべりを楽しんでいただく場：基本は毎月第三火曜日開催)

いわき市四倉仮設住宅お茶会 県連会員の協力のもといわき市四倉仮設住宅に暮らす避難者の方を対象にしたお茶会を実施しています。(目的：ふれあいお茶会と同様・基本は毎月第二土曜日開催)

ふれあいお茶会	いわき市四倉仮設住宅お茶会
2014年12月21日(火) 午前10時~12時 ●参加者:避難者11名・特養みどり入居者30名・子育てサロンから8名の49名 ●スタッフ:14名(ウィズ2名・生協連12名) ●場所:特別養護老人ホームみどり 地域交流室 今回はクリスマスパーティーとなりました。 ○プログラム ・演奏会、ビンゴゲーム、クリスマスリース作り ○メニュー ・浪江焼きそば、ケーキ、サラダ、スープ、おにぎり、ナゲット、ソーセージ、飲み物等 (スタッフ感想から) ・演奏会からビンゴゲーム、司会の方の配慮で和やかな場となり楽しい時間を過ごした。演奏会も二人でリハーサルを行ったとのことで心の奥に響く曲を披露していただいた。 ・浪江焼きそばを「うまい!田舎を思いだす。ほっとした。おいしかった。ありがとう」と言いながら召し上がっていた。作った方は「みんなの笑顔が作れれば良い」とおっしゃっていた。食べ物の力を改め	12月13日(土) 午前10時30分~14時 ●参加者9名 ●スタッフ名(とちぎコープ元理事3名・よつ葉生協1名・とちぎコープ現理事職員6名、生協連3名) ●場所:いわき市四倉工業団地応急仮設住宅集会所 ○内容 今回工作は、「ランプシェード」づくりでしたが、逆に被災者の方に「チラシを利用した箱の作り方」や「テープを利用した靴の作り方」などを教えてもらい楽しく交流ができました。 ○昼食 「鍋」がメインで、「仮設に来て初めて鍋を食べた」という方もいました。漬物やどら焼き、ユズを砂糖で煮た「ユズの黄金煮」なども好評でした。 仮設住宅では、隙間風が入り、寒いので新聞紙でふさいでいるなど切実な声も聞かれました。男たちは、「いわき市石炭・化石館」に出かけ、常磐炭鉱の歴史を学ぶことができました。年内最後のお茶会となり、新年にまた会えることを楽しみに終了しました。

て実感した。

- 最近のお茶会では参加者も少なくなり、さびしい想いをされているのではと心配したが、今日は皆さん楽しそうで、そのようなことはなかったと思う。入居者さんの参加にも元気をいただいた。
- 恒例となった手芸の時間、最初戸惑っていた方も自然と笑顔になってゆく。サロンの親子の参加もあり、それぞれが時間に没頭しながらもおしゃべりを楽しんでいた。
- 参加者のおしゃべりでは、電車の切符を買うのが大変だという話、雪が降ると外へは行かず家で過ごすという話、さだまさしのコンサートへ行った話…。今日はじっくりと聴くことができた。
- 初めて参加の方、宇都宮で定住しこちらで生きてゆきたいとのことだった。震災から4年近く経ち、それぞれの人生を生きてゆく時期となっている。お茶会のあり方も地域の人たちにも声をかけるなど、考える時期となっている。

以上